

2014年10月14日

日本共産党都議団長 吉田信夫殿

『景観モニタージュ写真の疑問点について』に関する回答書（追加）

独立行政法人 日本スポーツ振興センター
新国立競技場設置本部長 山崎 雅男

9月16日付「景観モニタージュ写真の疑問点について」を受け、9月30日付で既存景観モニタージュの作成方法について回答させていただいたところです。

その際、申し上げたとおり、参考として、当方でも街路灯や信号機の高さを測定しモニタージュ写真を下記方法により作成しましたので、別添にお示しします。

記

■A-1について

【モニタージュの作成方法】

このモニタージュ写真は以下の方法で作成しています。

- ① A-1の地点で撮影した写真（以下「元写真」という。）から、周辺地図データ上で視点位置と向きを設定。
- ② 上記設定位置と同じ地点と向きから見た「新国立競技場のCGモデル」（以下「モデル」という。）を作成。このとき測量図データ（測量者：株八洲）にある周辺道路の位置データと、信号機、街路灯の測定値データを併せて入力。
- ③ 透視図法で目線レベルの高さを「元写真」上に設定し、その設定ライン上に、作成した「モデル」の視点レベルを合わせるとともに、②で入力された道路データと「元写真」上の歩道等の位置や、信号機、街路灯のモデルと「元写真」のものを合わせて合成した。

■A-11について

【モニタージュの作成方法】

このモニタージュ写真は以下の方法で作成しています。

- ① A-11の地点で撮影した写真（以下「元写真」という。）から、周辺地図データ上で視点位置と向きを設定。
- ② 記設定位置と同じ地点と向きから見た「新国立競技場のCGモデル」（以下「モデル」という。）を作成。このとき測量図データ（測量者：株八洲）にある周辺道路の位置データと、信号機、街路灯の測定値データを併せて入力。
- ③ 視図法で目線レベルの高さを、「元写真」上に設定し、その設定ライン上に、作成した「モデル」の視点レベルを合わせるとともに、②で入力された道路データのうち手前に写る横断歩道のデータと「元写真」上の横断歩道の表示位置や、信号機、街路灯のモデルと「元写真」ものを合わせて合成した。